



太陽電池製造装置部品に参入

日本精密電子 熊本工場を拡張

【横浜】日本精密電子(横浜市区、一住連努社長、045・805・3371)は、太陽電池製造装置部品の市場に参入する。09年末までに8億円以上を投じ、熊本工場(熊本県)を拡張し、高性能の機械加工設備を導入する。太陽電池市場の回復を見越した先行投資で、現在売り上げの8割を占める半導体製造部品と並ぶ事業の柱をつくる。2010年3月期売上高は30億円(08年3月期約20億円)を目指す。熊本工場を拡張して太陽電池製造装置部品の加工ができる大型5軸NC旋盤や、それに対応する3次元測定器、微細加工装置などを導入する。また半導体製造装置関連部品の生産量を9月から10%以上引き上げ、太陽電池製造装置用部品の加工に備える。

現在の半導体製造装置用部品以外の売り上げ構成は、宇宙航空部品が約5%で、2010年までにこれを25%に引き上げる。太陽電池製造装置関連部品は15%にする。一住連社長は、「米国のサブプライムローンの影響で数年間は住宅需要低迷が続くが、太陽電池市場はいずれ持ち直すとみて、早期の事業基盤構築を図る考え。日本精密電子は半導体ウエハー用化学研磨(CMP)装置部品のリテーナリングの加工で優位性を持つ。

◀ トップページへ戻る